



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道 標



ベトナムからまた贈り物

ダウン、タムの両師マニラで司祭叙階

教区からも十七人が参列

五月三十一日(木)午前九時(日本時間午前十時)鹿児島に派遣される二人の若いベトナム人助祭が司祭の聖位に上げられた。会場の聖カルロス神学院(マニラ市)には、喜びの信者、そして何よりも彼らの身内の喜びの笑顔と涙があった。そこに鹿児島からの巡礼団がいたことは幸いだった。

少しほこりっぽい感じのする幹線道路沿いに神学院の敷地はある。喧騒の街とは違い敷地内は木々の緑に溢れ、校舎は古いが伝統を感じさせてくれる。 神学院内では司牧実習でかかわった若者たちに囲まれる受階者。その傍らでは久しぶりの仲間と会って抱擁を繰り返すアン神父(ザビエル教会)の姿も。 熱い熱い外の空気も、聖堂に入るとその荘厳さと高い天井から感じられるものから少しだけ和らぐ。 そして午前九時、物悲しくも感じられるベトナムの聖歌で入堂が始まった。美しい声の聖歌隊、ミサを芸術的だとも感じさせてくれた。そして朗読・聖歌の答唱を担当する者は軍隊

をも思わせるほど毅然とした態度。式が停滞することなく流れていく。ミサをつくり上げるために皆が緊張感を漲らせている。 福音が見事なまでに歌われた後、叙階の儀へ。 院長司祭から二人の推薦を受けたソク・ヴィレガス大司教が、司祭団に加えることを宣言すると聖堂内から大きな拍手。そして、二人の受階者に司祭としての生き方を説くヴィレガス大司教。「神からの声には『はい』と誘惑の声には『いいえ』とはつきり言うように。どんなに離れていても私はあなたたちのために祈ります」と語った。 大司教の前に進み出た二人は、大司教に司祭としての務めを果たすことを誓

い、連願のために床に伏せた。美しい声の連願は、会場に凍てつくようなヒンヤリとした風を。そして大司教の丁寧で長い按手は、司祭誕生の瞬間でもあると同時に心の込められた贈り物。日本という外国で、孤独にもなるだろう地で働くうとする二人の司祭への祈りとなった。続いて按手に郡山司教が向かう。そして三十人を超える司祭たちが。その中には、巡礼団として鹿児島から向かった松森孝郎神父、中野裕明神父、そして先にベトナムを離れた二人の先輩となったフア

ン・ミン・アン神父の姿があった。 助祭の装いから司祭のそれに変わるとき、郡山司教がその着替えを補助した。その後、家族の手を介してヴィレガス司教に手渡された聖器具を受け取る二人。今度は、司教、司祭たち一人ずつと抱き合う。日本では馴染みのない光景だが、新しい司祭誕生の喜びと異国へ旅立つ者を見送る寂しさの入り交じった美しい姿があった。「こんなに思われている人たちが鹿児島教区はいたかく...」

受階者を代表してタム新司教が大司教に、郡山司教にそして各国から駆けつけた家族や親戚、友人たちに「ここまで来られたのは皆さんの祈りと支えのおかげ。これから私に任せさせて下さい」と挨拶した。聖堂は大きな拍手で揺れた。ここに繰り広げられた叙階式は、二人のためだけの



郡山司教が按手



ダウン神父



タム神父



ヴィレガス大司教と抱擁

故人に錦を飾る

テレジア木下美穂子さん

オペラ歌手として、国内外の検舞台で活躍している木下美穂子さんが、この度、故郷の鹿児島市でリサイタルを開く。谷山教会出身の美穂子さんは鹿児島純心中学、高校を経て大分県立芸術短期大学で声楽を学んだ。二〇〇一年日本音楽コンクール声楽部門での第一位を皮切りに、留学先のイタリアでも数々の国際声楽コンクールで優秀な成績を収めた。



鹿児島でのデビューは実は今回が初めてではない。一九九九年十月、鹿児島アリーナでささげられたザビエル渡来四五〇周年記念ミサの中で、ちゃっかり答唱詩篇を独唱していたそう。それからこの大活躍。もしかしたらザビエル様のとりなしがあったのでは?と想像してしまう。

「プリマドンナ木下美穂子ソプラノリサイタル」は七月六日(金)午後七時開演、宝山ホールで行われる。当日のゲスト、杉谷直信(バス歌手)さんはご主人で、信者夫婦。今後のさらなる活躍を!

(H・N)

もの。それも異国の地で働く者に対してのもの。なのに申し訳ないほどの荘厳さだった。ミサの終わりに、皆で歌う「アーメン」の連呼。鳥肌が立つようだった。ミサ後は神学院中庭とホールで食事会。ホスト役に回った二人の新司祭は、祭服のままずっと各テーブルを回り喜びを共にしていた。

今回のテーマは「ヨハネ福音書を読む」で、講師は例年通り竹山昭神父(鹿児島純心女子大学教授・紫原教会)。講座は今回も午前の部が十時から十二時、午後の部は十九時から二十一時。受講料は受講回数に関係なく一人五百円。

ヨハネ福音書をテーマに夏期講座

ヨハネ福音書をテーマに夏期講座

教区主催の「夏期集中講座」が今年もザビエル教会一階ホールで開かれ

YET

自分で言うのもなんだが、他人の話を聞くのは下手。すぐに口を挟む。分かち合いでも議論に変えてしまふ。要するに「こたわり」「とらわれ」の化身のような自分だ。ましてや他人から己の間違いを指摘されると、素直に「その通り」「ごめんなさい」と頭を下げられずに、すぐに対決モード。おまけに一度、やり始めると、自分で挟み込んだ口を引つ込められるほど、人間もできてない。あとは戦争状態にまで事態を悪化させるという始末。やるか、やられるかのバトルに発展させる。要するに違う環境の人の思いや辛さにまで己の思いを広げられないというのが正解か。まさに病的こだわり。鮎釣りが解禁になった最初の日曜日、太公望と言われる神父さんのミサの説教は、鮎釣りの友釣りにひっかけて「なわばり」意識の話。自分のなわばりに入ってきた仲間を攻撃したばかりに釣り上げられてしまうその姿は、人を追い込んで、その後、落ち込むはめになる自分の姿と同じ。釣り好きの悪魔の餌食でもある▼「花粉症」である。現代病ということらしいが、結局、外からのものを異常なまでに攻撃したばかりに自分が痛い目に遭っているという。つまり細胞レベルからなわばり意識の持ち主なのか。さてとここまで正体が明らかになると、さすがにへこむ。「それでも」を見つめる努力も必要となった。

教皇ベネディクト十六世は今年二月、使徒的勸告「Sacramentum Caritatis」(愛の秘跡)を發布されました。これは二〇〇六年十月にバチカンで開催された聖体についての司教シノドスでまとめられ提言として教皇に提出された文書に対するいわば教皇の側からの決定文書です。

この文書の焦点はなんと言っても、感謝の祭儀(ミサ)の捧げ方、つまり典礼の作法(法規)について一定の方向性が示されたことです。一定の方向性とは一言で言うところ「典礼に参加する人々が作法を通して、いかに神の愛が深く理解されるようにできるか」という

新風 「愛の秘跡」

方向性です。第二バチカン公会議で發布された典章11項に次のような文章があります。「司牧者は、典礼行為においてただ有効で合法的な祭儀挙行の法規が守られるだけでなく、信者が意識的、儀の中で展開されているキリストの救いの秘儀を深く理解することこそ、真の意味で意識的、行動的参加になると指摘しています。もう一点は「感謝の祭儀」と「聖体の礼拝」は一对のものとして、理解すべきである点です。いつどこでもわたしたちとともにいることを望むキリストはミサの中だけでは不十分です。「聖体の礼拝」はそのことに気づかせます。文書の結論で教皇は初代教会から二十一世紀まで、聖体を生活の源泉において聖人たちが列挙しています。その中には日本でも有名な聖パードレピオや福者マザーテレサの名前もありません。

最後に、典礼でのラテン語の使用についてですが、多言語の人々が集まる国際的なミサでは聖書朗読、説教、共同祈願を除きラテン語で、主の祈りのような共通の祈りもラテン語が望まれています。それは教会の一致と普遍性をより明確に表現するためだとしています。従って、それによつて日本語のミサがラテン語に取って代わるといような意味ではないのです。ただ、

司教執務 宣 教 家 族

宣 教 家 族

宣教師は身近な言葉だし、親しい顔が直ぐに浮かんでくる。しかし、「宣教家族」というのは耳慣れない言葉だ。それでも、とても魅力的な響きのする言葉だ。特別説明を聞かないまでも、「家族ぐるみで宣教に従事する家族のこと」と、そのまんまで理解は出来る。しかし、現実には会ったことはない。

あなた方は立派な宣教家族だ。これからよその土地に派遣したい」と言つたとして、笑つて相手にされないことだろう。

この原稿を皆さんが手にする頃は、赤ん坊を含む六人の子供を抱えた宣教家族が小宿小教区に派遣されているはずだ。スペインの財を全て処分して遠い日本の小さな島の小さな教会に派遣される家族。神様に全てを託した両親。そんな両親に全てを託して、ふるさとを離れ、親しい友達とも別れて宣教に旅立つ幼い子供たち。全く違う言葉や文化。しかし、恐れを知らない宣教家族。これまで、聞いたことも出会ったことも

ない全く異質?の家族。「熱心な信者の家族」という範疇にも収まらない規格外の家族。そんな家族が鹿児島教区に仲間入りする。そんな家族に一日も早く会つてみたいと思う。信者達が、そんな家族の存在を肌で確かめて欲しいと思う。そして、異質でもなく、規格外でもなく、イエスを主と仰ぐ同じ信仰の友であることを知つて欲しい。そうして、神様から送られた新しい風が、鹿児島教区九千人一人ひとりの新しい息吹となつて「それでも!」を合言葉に、新たな宣教家族が誕生する。そんな夢がみんなの夢になつたらいいなあ。

ための暫定的な養成コースを十月から鹿児島本土地区と奄美地区で開始し、選任後に正式な養成コースを実施することにしました。この

養成コースと内容について何も触れていません。しかし、実際には宣教師の選任は緊急の課題と判断され、選任式を翌年の三月と設定し、その

鹿 児 島 教 区 の 宣 教 奉 仕 者 (月)

溝 辺 教 会 主 任 司 祭 永 山 幸 弘

と内容について何も触れていません。しかし、実際には宣教師の選任は緊急の課題と判断され、選任式を翌年の三月と設定し、その

将来の司祭は神学校でミサ典文をラテン語で読めるように準備しておくことは要求されています。(H・N)

+KABAYAN SEKSIYON+

"Tradisyong Apostoliko at Tradisyong ng Simbahan"

Bilang bunga ng kaugnyan ng Tradisyong at Banal na Kasulatan, ang Simbahan ng kung saan ang paglipat at pagpaliwanag ng kapahayagan ay ipinagkatiwala ay hindi lang tumatanggap ng katiyakan tungkol sa lahat ng katotohanan na ipinahahayag na hindi lang galing sa Banal na kasulatan, subalit galing din sa Tradisyong Apostoliko at kailangan tanggapin at kilalanin ng parehong damdamin pagdebosyon at pag-galang.

Ang Tradisyong Apostoliko ay may kaugnyan din sa Tradisyong ng Simbahan. Ang Tradisyong na nandidito na may katanungan ay nangaling sa mga alagad at ipinagkatiwala din nila ang mga itinuro at halimbawa ni Jesus at kung ano ang kaniyang nalaman galing sa Banal na Espiritu.

Ang unang salin-lahi ng mga kristiyano ay wala pa yong kasulatan ng Bagong Tipan at ang Bagong Tipan mismo ang nagpapakita ng proseso ng buhay na Tradisyong.

Ang Tradisyong ay kailangan kilalanin galing sa iba't-ibang teolohiya, disciplina, liturhiko o tradisyonal na pagdeboto, na isinilang sa mga lokal na Simbahan sa pagdaan ng panahon. Ito ang mga partikular na porma, na nakuha sa iba-ibang lugar at panahon, na kung saan ipinahahayag ang malaking Tradisyong.

Sa liwanag ng Tradisyong, ang mga tradisyong na ito ay pwedeng manatili, baguhin o ipagkatiwala sa ilalim ng pag-gagabay ng Pagtuturo ng Simbahan.

Kaya mga kababayan ko, tayong mga bininyagan sa Simbahang Katoliko ay naging bahagi ng Tradisyong na nangaling sa mga alagad ni Jesus na itinuro rin sa kanila ng Panginoon.

Kaya hindi tayo iba sa kanila, parehong Tradisyong ang tinanggap natin. Kaya kailangan natin ang gabay ng Inang Simbahan para mas lalong mapalalim ang ating Pananampalataya.

Kung mayroon kayong mga katanungan o hindi nauunawaan sa buhay ng pagiging kristiyano natin ang Simbahan ay laging nakahandang tumulong sa atin at ituturo sa atin ang tamang pamumuhay ng isang kristiyano.

III 宣 教 奉 仕 者 の 養 成

五十周年文書には宣教師の養成について「宣教師の養成は『教区信仰養成委員会』が担当する」とだけ記し、その具体的な養成コースと内容について何も触れていません。しかし、実際には宣教師の選任は緊急の課題と判断され、選任式を翌年の三月と設定し、その

IV 小 教 区 に 宣 教 委 員 会 を 新 設

現在小教区に「司牧評議会」がありますが、小教区の運営、行事などに追われ、信仰養成、宣教の推進に関

V 宣 教 奉 仕 者 の 靈 性

ここで「靈性」を信仰生活の方向づけあるいは心構えとして使用したいと思えます。任務を遂行するとき誰でも人間は全体表現することになり、その人の表面的なものではなく、生き方の方向性とあり方が問われるからです。

宣教師奉仕者の靈性について選任式の典文はこのようになっています。「人々に神のことはを説くあなた(がた)は、自らが聖霊の導きに忠実であるように心がけ、神のことはをよく黙想して心の糧とし、自分の生活の中にキリストを迎え、ことばと行いをもってキリストを証しするように努力してください」と。

①みことばへの奉獻：みことばを受け入れる人は全生活をみことばにゆだねます。日々みことばを黙想し、味わうことによつてキリストへの愛が深まり、それを伝えずにはいられなくなり、神に対して、知性と意志を

完全に奉獻し、神から与えられた啓示に対して自発的に同意して、自由におのれを全く神にゆだねるので(啓示憲章5)。同憲章はまた「内において神のことばの聴取者でない者は外においてむなしい説教者である」という聖アンブロジーオの言葉を引用しています(同25)。なおベネディクト十六世は「神のことはの黙想(LECTIO DIVINA)を推奨しておられます。

②教会への奉獻：教会つまり神から呼び集められた共同体一人ひとりに奉仕する心、全面的な献身がなければ実りをもたらすことはできません。もちろんすべての人々の救いに対しても同様です。また教会はわたしたちですから聖職者も信徒も、その身分を堅持しながらも、お互いを認め合い、謙虚な心で仕え合うことが必要です。宣教師奉仕者の任務は自分のために与えられたものではないからです。(了)



カテドラルで初のフィリピンフェスタ

―独立の喜びを共にし成長を願う―

鹿兒島市内在住のフィリピン人が中心になって、六月十日(日)午後、鹿兒島カテドラル・ザビエル教会で「フィリピンフェスタデー」を開いた。これは六月十二日に記念されてい



美しい民族衣裳をまとった女性たち

るフィリピンの独立記念日(今年百九回目を前に、県内に住むフィリピン人同士の親睦と日本人との交流を深める狙いで開かれたもの。これまで外国人のためのミサはささげられてきた

同教会だが、施設を開放してのこのような集いの開催は初めて。午後一時からミサに参列した参加者たちは、その後聖堂前広場を使って各自持ち寄り料理とバンド演奏、ダンスなどで国際交流を深める楽しいひとときを過ごした。

この集いを企画したベルナルディーノ神父は「これからキリストを中心にして、宣教のために様々な企画で交流を深めていきたい」と抱負を語った。

神父によると現在、鹿兒島市内だけで十五人ほどのフィリピン人が生活しており、県内全域ではその数は百人を超える。時間の許す限り各地を巡っている神父だがまだ全員を把握できていないのが現状。今後は、地区のフィリピン人リーダーたちと連携して、もっと司牧を充実させていきたい張り切っている。教区に大きく頼もしいフィリピンを中心とする外国人の共同体ができつつある。

ペトロ岐部と一八七殉教者列福決定 列福式については再検討

教皇ベネディクト十六世は、六月一日(金)、日本カトリック司教協議会が教皇庁に申請していた薩摩の殉教者・レオ七右衛門を含む「ペトロ岐部と一八七殉教者」の列福を承認する教令に署名し、これを承認した。列福式は、今年の秋を希望していた日本側だったが決定には至らず、来年以降の開催に向けてバチカンと交渉することになる。

七月から募金開始 教区財政緊急募金

郡山司教は六月八日(金)、「教区財政緊急募金」実施についての文書に署名し、各小教区と各修道院に配布した。文書は会計部から毎年配布されている会計収支計算書などの資料とともに送付されたが、会計部では先の文書とともに、

広く信者さんに知ってもらうためにキャンペーンカードも同封した。

短信

▼典礼研修会

四月から教区典礼委員会主催で始まった典礼研修会が五月二十七日(頭島光神父「第二バチカン公会議の典礼憲章から聖体祭儀を学ぶ」と六月十七日(郡山健次郎司教「ミサとは何か」)、ザビエル教会一階

▼修道女連盟総会

六月三日(日)教区修道女連盟ではザビエル教会で研修会と総会開いた。集まった六十人あまりの修道女たちは、郡山司教の講話で宣教に必要なものを学習した。



ホールであった。▼ザビエル教会聖信式

▼初の新会長

尚、新会長にはレデンプトル宣言修道女会の澤ヤエ子修道女が就任した。父(イエズス会・七十二歳)。実は、教区初の黙想専門司祭である。郡山司教の願いにこたえてチャブレンとして赴任してきた神父は「魂に目覚めて、気力一杯・心一杯に生き活き」を motto に、皆が本当の幸せをつかめるように、日帰り内観と泊まりがけ内観を準備してその訪問を待っている。

初の新会長 岡 俊郎神父



今年五月、名瀬市のカトリック長浜研修所(内観研究所)から司教館横の「研修の家」に移り、長崎純心聖母会鹿兒島修道院のチャブレンとして活躍している岡 俊郎神父

内観希望の方は岡神父まで。(TEL)〇八〇―三九七二―七八五七

7月 今月の暦

- 1日(日) 年間第十三主日
- 3日(火) 聖トマ使徒
- ▼松森孝郎神父霊名
- ▼頭島 光神父霊名
- 4日(水) 池田紀行神父叙階記念日(一九七〇年)
- 5日(木) 泉 浩二神父霊名(聖アントニオ)
- 8日(日) 年間第十四主日
- ▼船員の日

教皇庁移住移動者司牧評議会は、七月の第二日曜日を「船員の日」と定め、世界中の信徒に船員たちのために祈るよう呼びかけています。

私たちの生活物資の九〇%は海外からの輸入でまかなわれ、その九九%は船に頼っています。昔以上に、船員たちの労働に頼っていることになりました。しかし、船員たちと私たちとの間に人間的な交わりや文化的な交流はどの程度あるのでしょうか。船員のことには心配ることはあるでしょうか。確かに、経済的な理由から船員たちの上陸時間は短くなり、港での憩いのひと時もままなりません。だからこそ、そのひと時を応援するために船員司牧(AOS)が必要なのです。そして、離れ離れで生活せざるを得ない船員とその家族のために、サポートし祈る必要があるのです。

帰ってくるザビエル像！

ザビエル教会では、郡山司教の意向を受けて、現カテドラルの建設に伴う旧聖堂取り壊し以来その姿を見せなかつたザビエル像の設置を決め、八月十二日の実現に向けて準備している。

門田 明氏の 鹿兒島とキリスト教⑭

山口人マテオ、

鹿兒島人ベルナルドとザビエル
一五五一年十一月十五日、ザビエルは日本を去った。四月末、京から山口に着きしばらくそこにいたが、九月中旬、豊後領主大友義鎮の招きで府内に行き、ポルトガル船の船長ドゥアルテ・デ・ガマの歓迎を受けた。しかしマラッカからの便りもなく、インドの留守中の状況も心配であり、ひとまずゴアに帰ることにした。ガマの船に乗り、豊後沖の浜を出帆、その後船を継ぎ、翌年二月ゴアに帰り着いた。このとき、二人の日本人、山口のマテオと

鹿兒島のベルナルドが同行した。ヨーロッパに留学させるつもりであった。一五五二年四月八日付け、ポルトガルのシモン・ロドリゲス神父宛の手紙に次のように紹介している。

「そちらへマテオとベルナルドが行きます。彼らは生粋の日本人で、ポルトガルやローマへ行ってキリスト教世界を見て帰国し、見聞したことを日本人に証言したいと願って、私とともに日本からインドへ渡航しました。親愛なる兄弟シモン神父よ、主なる神への愛と奉仕のために、彼らをよく世話して、満足して帰るようにはしていただきたいとお願いたします。なぜなら、彼ら自身の口から証言を聞けば、日本人はきっと私たちを大いに信用することになるでしょう。」

残念なことにマテオはゴアの酷暑に耐え切れずすぐに他界してしまつた。残されたベルナルド一人が、一五五三年九月リスボンに到着した。しかし、苦労を重ねた長旅のあとで疲れ果てていたようである。

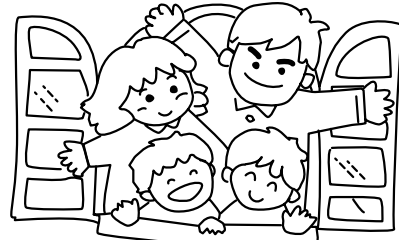
一五五四年五月八日にリスボンの聖アントニオ学院からある人が出した手紙に、「ベルナルドは自分を鍛えようと決心して日本から来た立派な人です。しかし長い航海だったので、弱っていて元気がありません。それでも元気になれば、どんなにも勉強できるのだから、まず体をつくることだと励ましてやりました」とある。次回はベルナルドについてももう少し詳しく話したい。(玉里教会信徒・ザビエル上陸顕彰会会長)

神学生からの手紙

郡山司教が送った励まし
のメッセージにこたえ、
長崎カトリック神学院に
学ぶ教区の小神学生四人
がそれぞれ現状報告の便
りをくれたので紹介した
い。

中三 田代竜之
お久しぶりです。
私は最高の人生をお
くっています。良き後輩
にも恵まれ、楽しい毎日
です。おかげさまで中三
になりましたが、何かと
問題児の私を今後ともよ
ろしく願います。司
教さま、お体に気をつけ
て!

中一 大田 聖
こちらでの生活に慣れ、
楽しく、元気にすごして
います。
鹿兒島の神学生として



若い力

教区の役に立てるよう毎
日、がんばりますので、
これからもよろしくお願
いします。

中一 石堂 陸
神学校の生活に慣れは
じめました。
神学校ではいつも楽し
くすごしています。将来
は神父になるので、応援
よろしくお願いいたしま
す。

高1 園田克也
お葉書ありがとうございました。
高校生活は順調です。
三人の後輩もそれぞれが
んばっています。
ベトナム人の神父さま
が二人増えたようですね。
私も続くことができるよ
う毎日キバつていこうと
思います。



5月30日〜6月5日

叙階式とベトナム巡礼に参加して

五月三十一日(木)マニラでの叙階式に参列し
た巡礼団(団長郡山健次郎司教以下十七人)は、
その後、ティエン神父とアン神父、そして今回の
二人の新司祭を育てたベトナムを巡礼した。一行
はホーチミン市を訪ねた後、アン神父らの出身地
ニヤチャン教区を訪問、アン神父の自宅にも招か
れ、親族から厚いもてなしを受けた。

南の国を歩いて
松森孝郎

常夏のマニラに着いたの
は夕方。大地を踏みしめな
がらカトリック教国の雰囲気
を楽しむ。大聖堂から溢
れ出ている信者らが静かに
行列を作つて待っているの

奄美 林 常広

ぶ夫の笑顔がうれし
病院の喫煙室より患者らは鴉の巣立ち
をじっと見守る

鹿兒島 前田儀子

公平にめぐれる季をよつて咲く泰
山木の大きな蕾

鹿兒島 春山マリ子

久々に見舞いの叔母の声聞けばみう
ちの者の安らぎ憶ゆ

奄美 林 明子

まずしけり心のなえたわれみつめわ
らいとばすなあほうどりよ

純心学園 川上 和

さわやかなハウスに集う乙女らのほ
しやぎにはしやぐ親睦の夕べ

古仁屋 豊島忠司

疲れたる日の目覚めより第一にタバコ
が吸へると思ひて起きる

選者 森 博伸

若き日のよこび偲べばそのすべて父母
と働き年追ひし野路



アン神父の親族の方々と記念写真

のマニラでの叙階式に参
列しました。
心ときめきするもの(枕
草子)久しぶりに魂がふ
るえる)でした。国を問わ
ず、親の心は同じだと思
います。お二人の母上さま
は光る涙、涙でした。母親に
とつて、子どもはどんなに
成長しても、我が子は自分
の分身ですもの：
お二人の母上さまの涙で
私どもも久しぶりに魂が震
え、汗と涙がとめどもなく
流れ、心の皮膚が柔らかく
なるのを覚え、幸せいっば
いになりました。
ベトナムからおいでくだ
さる神父さまは、神さまか
ら選り抜かれ鹿兒島に來ら

れます。私ども
も心してお迎え
したいものです。
叙階式の後、
ベトナムへも
かがいきました。
ベトナムの方
々は人生を丁寧
に生きておられ
ます。
十年後、二十
年後のベトナム
は素晴らしい国
になって、日本も
お世話になってい
ると思います。
ベトナムの皆さま
は賢明な方々です
から。
「マンゴのひとりごと」
わたしは
黄色いマンゴです
お国は暑い南国で
マンゴの
小枝の晴れた日に
てんびん棒に
かがれて
町の市場へ行くの
かな
マンゴ マンゴ マンゴ
マンゴかわい
い
ひとりごと
(五十年前の大和撫子のお
語り)

文芸

俳句 (思川俳句会作品)

田平新太郎選

出水 沖 弘子
山一つ遠くにおきて代田かな
(評)「遠くにおきて」が情景を満
した佳作

鹿兒島 東 健一郎

白百合を抱く遺影に白百合を
出水 遠竹睦郎
鮎解禁夕餉に鮎を食べにけり
鹿兒島 徳永ノブ子
短夜や短かき祈り床の中
(評)床の中の祈りこそ真の祈りで尊
い。

鹿兒島 春山マリ子

紫陽花のこぼるる花に玉の雨
純心学園 山頭信子
聖母祭花かんむりの学生ら
阿久根 中津濱フサエ
紫陽花のこぼるる花の垣根かな

鹿兒島 本城 愛
山合の梅雨の晴間に鳥群るる
純心学園 川上 和
平和の塔葉桜薫る特攻基地
選者 詠
早苗田に蛙鳴き合う在所かな
短歌 (思川短歌会作品)

田平新太郎選

出水 遠竹睦郎
被爆せし永井隆の書を読み幾度も
行きし乙女峠偲びて
(評)結句の「偲びて」が作者の深い
信仰に伴う祈りを感じさせる佳作

阿久根 眞清水 藍

椴櫚檜の木椎の木若葉して梅檀の香
風にかぐわし
(評)上句の写生の美しさが梅檀の香
に引き込まれる佳作

大口 森 博伸

頑なに素直になれぬことありて素直
になれぬ念りを見つめる
阿久根 中津濱フサエ
ささやかに肩もみあえるひと時を喜

選者 森 博伸

若き日のよこび偲べばそのすべて父母
と働き年追ひし野路



鹿屋教会で初聖体

6月10日(日)久しぶりに子ども4人
が初聖体。ふだんは静かな教会も何やら
活気づいたようです。

黙想会「今を生きる」

指導：キッペス神父
日時：7月28日(土)10時〜29日(日)16
時 場所：マリア山荘 TEL 0995 (58) 2994
問合せ・申込先
西 0995 (63) 1943 宮地 099 (262) 4022